

山行報告

■南アルプス 鳳凰三山(薬師岳・観音岳・地藏岳)

- 日程：8月8日(木)～11日(日・祝)
- 参加者：L三木(悦) SL和田 島谷 瀧原 田羅間 村上
- 行動記録：

(8日)JR 姫路駅 8:05 発—JR 甲府駅(13:15 着)14:05 発—夜叉神ヒュッテ(15:20 着・泊)

(9日)夜叉神ヒュッテ登山口 4:20 発～夜叉神峠(5:45 着)6:00 発～杖立峠(7:55 着)8:15 発～苺平(10:30 着)11:00 発～南御室小屋(11:35 着)11:50 発～薬師岳小屋(13:40 着・泊)

(10日)薬師岳小屋 4:07 発～薬師岳 4:18～観音岳(5:15 着)5:25 発～地藏岳(7:10 着)7:40 発～鳳凰小屋(8:15 着)8:40 発～燕頭山(10:30 着)10:40 発～西の平 12:40～御座石鉱泉(13:35 着・昼食・入浴)16:35 発—JR 韮崎駅(17:30 着・夕食)夜行バス 23:00 発—(11日)大阪(7:10 着)

◆歩けた！鳳凰三山

島谷



「ほうおう」の厳かな響きに、いつか登りたいと思っていました。とても厳しいイメージをもって今回の申し込みを躊躇しましたが、ゆっくり歩くと聞き参加を熱望しました。参加決定時は、嬉しさとキャンセル待ちの方々に申し訳なさとお方の気持ちでしたが、きっと無事に終え、またの鳳凰三山計画がなされるよう頑張ろうと気持ちを前向きに臨みました。夜叉神ヒュッテはとてもきれいで、お風呂も食事もお弁当も満足です。部屋に蛇やカエルが入ってくるのは予想

外でしたが、和田さんがヒョイトつまみ出してくださり、大声を出さずにすみしました。

登山初日「雷情報から判断して、14時までに薬師岳小屋に絶対に着く」とリーダーの宣言があり、4時20分小屋発で長いながい登りが始まりました。南アルプスってこんなに暑いのでしょうか。森の中で風が通らずともしんどかったです。岩場ではタカネビランジが多く見られ、高山ならではの癒しです。薬師岳小屋は水場がなく、許されているのはトイレ後の手洗い水のみです。それでも、トイレがあり、食事が出て、日の丸お弁当が提供されるので、やはりありがたい小屋です。

登山2日目、薬師岳・観音岳・地藏岳と北へ進むにつれて、南に見える富士山は小さくならずだんだん大きく見えるのです。雲や霞のかかり具合なのでしょうが、まさに成長している如くでした。「富士はやっぱり眺めるもんやね」の声に一同うなずきます。赤抜ノ頭からみた地藏岳のオベリスクはとても大きくみえたのですが、近くまでいくと本当にヒョイト登れてしま

いそうな錯覚を覚えます。オベリスクのすぐ下まで行き、リーダーの「ここまで」の声に、皆、満足な表情で記念撮影をしました。賽ノ河原のお地藏さまは、抱え持ち上がられた方々の想いや願いはわかりませんが、天に届けとばかりに鎮座されていて、重く深い雰囲気でした。北岳・間ノ岳・甲斐駒ヶ岳、そして槍ヶ岳までみえ、大満足です。新しい目標が増える一方です。鳳凰小屋からは、岩の段差が大きく、又雨量が増しているはずのドンドコ沢を避け、北の燕頭山経路で御座石鉱泉へ下りました。その道も木の根が多く歩きにくい、風の通らない、長いながい道で、辛かったです。

8月に入り台風8号が過ぎ、続く9・10号の様子に、リーダーは小屋や観光協会から情報収集し、前日の昼に決行が決定されました。雷情報に従い判断し、またメンバーの様子を見ながらのリーダーの臨機応変な対応で、全員が怪我なく下りおえました。今も「行くよ」の声が心地よくリフレインしています。

■草木川トレッキング、笠杉山

● 日程：8月11日(日・祝)～12日(月)

● 参加者：L藤本 SL木下 乙坂 高島 田中(重) 平石 森下 安田 矢根 山本(清)

● 行動記録：

(11日)千町小屋 11:00 発～草木川入溪(12:00 着)～草木川上陸(13:30 着)14:00 発～千町小屋(14:30 着・泊)

(12日)千町小屋 5:30 発～笠杉山(6:20 着)6:40 発～千町小屋(7:30 着)9:40 発～草木川入溪(9:50 着)10:05 発～草木川上陸(12:00 着)12:05 発～千町小屋(12:15 着)

◆草木川遡行と笠杉山

田中(重)

11日(日)連日36～37度の猛暑日が続く沢歩きには最高の予感の中、それぞれが宍粟市役所の駐車場(8時30分)集合し4台の車に分乗して草木川遡行に出発。

今回は1泊2日の沢歩きと笠杉山山行なので途中のスーパーで今夜と明日の食材を調達に・・・ミーティングでの打ち合わせたメモを片手にワイワイガヤガヤ、これが又楽しい。

途中、草木川の流れを見ながら「千町やけの小屋」に到着、小屋を開けて今夜の段取りを手際よく済ませ草木川へ向かった。

ストレッチをして草木ダム近くから沢を上る・・・天候続きで藤本Lいわく6月よりは水量が少ないけれど青空の下の遡行は気持ちが好い。

澄んだ水を透して足元の小石や岩を確かめ流れに逆らいながら上る、時おりキャーとかワーとか・・・楽しい声が!?最初は足首、そして膝から腰へと段々に、時には岩に座って水飛沫を楽しみ上流に進んで行く。暑い最中でしたが少し冷えた体を岩の上で温め爽やかな緑風と谷川のせせらぎを満喫した一時でした。

昼食タイムの間に身体も温まり、さらに奥へと遡行するとやがて壺状で背丈ぐらいの深みに・・・でも大丈夫ザックが浮き袋の役目を果たしてくれるので、これまたスリル満点でした。



水温・水流・水深の3要素で足首・膝・腰の強化につながるのでは？・・・と私なりに思いました。今回の沢歩き体験で感動の時間を過ごしました。

皆で早目の夕食の準備に取り掛かり、まずはビールでカンパニー、木下さん担当のホルモン鍋を頂き、高島さん担当のピザが出来上がり賑やかな食卓を囲みまんぷく満腹でした。

翌12日(月)早朝4時30分起床で5時過ぎ「やけの小屋」前で記念撮影後、笠杉山へ出発しました・・・朝の爽やかな空気感の中、笠杉山登山口から急登の樹林帯で標高差約300mを1時間程でガラガラの足場の悪い狭い山頂に到着。山頂では展望もよくコーヒータイムで一息入れ下山へ・・・途中で山ホトトギスの可愛い花をあちこちに見る事が出来ました。

小屋に戻って、ごはん味噌汁、野菜のサラダ、昨夜の食べきれなかったピザで朝食。

昨日に続いての草木川遡行でしたが矢張り2日目は足首の疲れを感じました。

昼には小屋に戻り、冷やしそうめんと縁先での冷えたスイカは最高に美味しく並んでかぶりつく光景はこっけいで思い出深い「千町やけの小屋」になりました。

藤本リーダー・皆さんお世話になりました。

■ 柚谷峠から穂高湖、シェール槍、摩耶山

● 日程：8月18日(日)

● 参加者：La 砂川(延) SLa 瀧原 天野 大谷 小田(敏) 乙坂 黒本 笹木 澤田(律) 田中(美) 田羅間

Lb 森本 SLb 藤原(千) 土井 徳本 春本 平野 福田(正) 山本(正) 和田

● 行動記録：阪急六甲駅 9:05 発～柚谷登山口(9:50 着) 10:00 発～柚谷峠(12:10 着) 12:45 発～シェール槍(13:15 着) 13:20 発～摩耶山(14:10 着) 14:40 発～史蹟公園(14:50 着)～摩耶ケーブル下駅(15:35 着)

◆ 柚谷峠から穂高湖、シェール槍、摩耶山

春本



一昨日台風が過ぎ去り、猛暑での昨日善防山、笠松山での土曜トレに参加した後の今日、好天だが暑さが予想され、いつもの小型ザックの中に保冷バックをいれて氷とペットボトル4本の飲料で家を出発。

六甲駅集合から護国神社公園で、B班リーダー森本氏のストレッチ、これがこの後の山行で休憩での筋膜はがし等、大いに参考になるポイントです。

砂川会長A班先導、我がB班9名は急登徳川道を柚谷峠目指すが、夏山集中トレの厳しさが早速出てきました。いつもは健脚であるはずのベテランメンバーが遅れ脱落者も、実際この私も休憩が待ち遠しいくらい身体の重さを感じたのでした。

昼食後快適な穂高湖畔、シェール槍と気持ちよく歩いて、オテル・ド・摩耶までの急登後半のふんばりで後は下山コースをこなすのみ。

やむを得ず計画コースの変更で、ケーブルに乗ることになったがそれはそれで楽しめました。

プランB、Cとリーダー判断の難しさ凄さを感じました。

また休憩中に飴やグミ等の配布は、独りの山行には無い、有難くとてもいいことと感動しました。見知らぬグループからも戴きました。

前回の六甲は雨でしたが、今回は日陰が多いのに暑さが厳しくウェアや手ぬぐいが汗びっしょりでした。帰宅後も水分を求めています。ストレッチのおかげか翌日の筋肉痛はほとんどなく、次回に繋げたいと思います。

◆ 柚谷道、初めてのシェール槍、摩耶山を歩いて

小田(敏)

お盆も過ぎて熱帯夜ではなくなったが、まだまだ日中は厳しい暑さのため、飲み物2リットルをリュックに積めて、阪急六甲駅に集合した。夏山集中登山のトレーニングを兼ねて参加された方も多く2班に分かれた。駅から柚谷道登山口までは、住宅街の急坂の道路を

40分歩いて行った。途中、ストレッチをした護国神社公園までは、街路樹の木陰となり歩きやすかったが、その後は、陰もなくどんどん気温が上がり、登山口に着いた時には、みんな汗だくだくになっていた。陰を求めて小休止のため、腰を下ろす。

登山道に入り、セミの声と、川の流れる音を聞きながら、川筋見ながら登って行く。人も少なく静かで川の音に癒される。この柚谷道は、令和元年初日記念に徳川道を歩いた時に下りで歩いたことがある。何回も渡渉を繰り返し厳しかった事を思い出した。でも、渡渉のたびに小さな滝があったり、岩場があったり変化があり、楽しい思い出になっている。

見上げる摩耶砂防ダムは、先日の台風の影響か水量が多く滝のように溢れ流れており、マイナスイオンがいっぱい。河原を渡り、小高い巻き道を登って行く。しばらく行くと鉄の階段があり、登ったところで休憩。蒸し暑くて、風が通らないので、バテバテでした。水分補給し、うちわで涼を求める。少し長めの休憩をとり、柚谷峠を目指して出発です。谷筋に水が見られなくなると、途中から整備された石の階段になった。急坂の長い長い階段を黙々と登り続けると、やっと柚谷峠に到着です。そこで昼食休憩を取るようになった。水分を取りすぎてあまりお腹が空いていません。疲労回復には、梅干しが効果あるそうで、1個頂きました。今度からは、私も持ってくるようにしようと思った。

穂高湖周遊路を歩き、シェール槍を目指した。初めてのシェール槍。「シェール槍10分」と示された小さな標識があった。リュックを置いて、ロッククライミング気分を味わいながら、すぐに頂上に着いた。頂上は、狭くゆっくりと景色を楽しむ事は出来なかった。

穂高湖から車道をしばらく歩くとアゴニー坂の分岐に出ました。「ああ～、また登り。」心が折れそうだった。摩耶山掬星台まで急登で、結構きつかった。

掬星台広場の休憩舎で一休み。自動販売機で冷たい飲み物を購入して、ゴクゴク、最高です。ペットボトルを首にあてて、気持ち良い～！！

ここで、下山は予定を変更して、摩耶ケーブル駅まで歩いて、ケーブルで下りることに決まった。史跡公園の長い階段もルンルンと下り、虹駅に向かいケーブルで無事下山出来た。

六甲山は、近くの山で色々なコースを歩くことが出来て楽しめるので、出来る限り山行に参加している。また、六甲山地図を買って、歩いたルートを色付けして、地図を眺めるのも一つの楽しみとなっている。

リーダーを初めご一緒させていただいた皆さん、大変お世話になりました。蒸し暑くて厳しかったので、自宅に帰るとバタンキューでしたが、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

2019 夏山集中登山 ①～④コース

- 山 域：後立山連峰 ●参加人数：男15名・女21名
- 集中日：8月25日(日) ●宿泊場所：白馬ハイランドホテル

■①コース 八方尾根から唐松岳

- 日 程：8月23日(金)～26日(月)
- 参加者：L砂川(延) SL佐々木 阿部 天野 泉 黒本 荘所 廣岡 矢根
- 行動記録：
 - (23日)JR加古川駅北口 21:30 発—播磨中央公園 22:20 発
 - (24日)八方アルペンライン乗り場(5:10 着)7:05 発—(リフト乗継)降り場(7:40 着)8:00 発～石神井(八方山)ケルン(8:30 着)8:40 発～第2(息)ケルン(8:58 着)9:00 発～八方ケルン(9:10 着)9:20 発～八方池(9:35 着)9:45 発～扇雪溪(11:05 着)11:45 発～丸山ケルン(12:25 着)12:35 発～唐松山荘(14:15 着・泊)
 - (25日)唐松頂上山荘 9:10 発～丸山ケルン(10:05 着)10:25 発～扇雪溪(10:52 着)発～第3ケルン(八方池)(11:55 着)12:05 発～八方池山荘・昼食(リフト乗場)(13:05 着)14:00 発～ゴンドラリフト八方駅(14:45 着)15:18 発～白馬ハイランドホテル(15:40 着・泊)
 - (26日)白馬ハイランドホテル 9:00 発—播磨中央公園—JR加古川駅—JR宝殿駅—山電高砂駅(19:00 着)

◆夏山山行に参加して



泉

昨年9月に入会して初めての夏山山行に参加させてもらいました。勿論、初心者向けの①コース＝八方アルペンライン駅からゴンドラとリフトを利用して八方尾根を唐松岳へと目指すコースです。23日の夜、小雨の中貸し切りバスが高砂駅前を出発して各集合場所で順次参加者を乗せてJR白馬駅経由で八方アルペンライン駅へと向かいました。翌朝アルペンライン駅に到着した時には雨はすっかり上がり、雲間に青空が見えました。7時にゴンドラが運行を始めるまでの待ち時間で朝食を済ませチーム9人が次々とゴンドラに乗り出発です！上の方はガスがかかっていたのですが、晴れ間から麓の景色が見えました。リフトに乗り換え空中に体を放り出して開放感満載です。次のリフトに乗り換え八方池山荘(1,830m)に到着、先輩の指導でしっかり準備体操をして出発！岩がゴロゴロある登山道を歩き始めました。いつものことですが上りは息が上がります。可愛い花を見付けながら30分ほどで石神井ケルン(1,974m)に到着、眼下に八方池山荘の赤い屋根がはっきり見えました。第2ケルン(2,

005m) 八方ケルン(2, 035m) を経て八方池(2, 060m) に到着。土曜日と云う事もあり八方池まではハイキングスタイルの家族連れを多く見かけました。この先からは登山装備が必要! の立て看板がある登山道に入ります。いつもなら汗でタオルがびしょりなのですが気温が低くて汗がそんなに出ません。残雪の扇雪溪の前でゆっくり昼食休憩をとり今日の目的地唐松岳頂上山荘を目指しました。足場の悪い岩場を注意しながらゆっくり上り、丸山ケルン(2, 430m) を経て小屋に着いたのは15時半ころでした。整理体操をして部屋に入り着替えてからザックを整理していると雨が降り始めました。小屋にはスリッパもなく足先が冷たくてびっくりしました。登山中に雨が降らなくてラッキーでした。会長さんと班の皆さんに助けられて初めての夏山山行を楽しく経験できました。ありがとうございました。

◆八方尾根から唐松岳に参加して

阿部

8月25日、本来ならば唐松頂上山荘から唐松岳へ登山予定でしたが、昨夜の雨の影響で、2m先が見えない程の霧! 諦めざる得ない状況でした。会長の判断で、9時ころ迄、様子を見ることにして、それまでは食堂でゆっくりとコーヒーを、いただくことになりました。とても美味しかったです。

しかし、残念ながらガスは晴れませんでした。予定通り9時から下山開始です。雨の影響も少なく、足元のスパッツが汚れる事もなく、スムーズに歩くことができ、時間にもゆとりがありましたので、花畑があると皆さんカメラでゆっくり写真撮影! 天気の方は、100m位下山した位のところから見事にはれ。八方池山荘で、美味しい蕎麦を昼食に頂きました。リフトに乗り継いで、うさぎ平で、記念撮影、散策。買い物、食後のコーヒー等々。リフトで八方駅へ。ホテルまでのシャトルバスに上手く乗車でき、他のチームの方々とも合流できて、一緒にホテルへ向かいました。

ホテルの湯船から、白馬三山が望めましたが、このときは、暗かったので、あれ何だろうな位でみていましたが・・・夕食は、貸し切りの部屋「桜の間」でバイキングでしたが、お料理も美味しく、お腹いっぱい食べすぎてしまいました。久しぶりのベッドで早めに就寝しました。

8月26日の早朝、風呂へ行ってみますと、何とも言えない白馬三山の朝焼けを見ることができました。今でも、あの時の朝焼けの赤さは目に焼き付いています。それから1時間の白馬三山も、朝とは表情をガラリと変えて、白と黒の里絵みたいな感じで素敵でした。

ホテルの前で集合写真を撮ってから、バスにて帰路に、無事19時位に高砂駅へ到着。

初めての夏山山行に参加して、いろんなことを勉強させて頂きました。天候の判断、そして何よりも、自分の健康管理、体力の維持、精神力も大事ですが、皆さんと一緒に同じ事を考えて同じように行動し、ある時は判断し、ある時は協力、ある時は協調等、団体だからこそこの経験出来た事も多くありました。リーダーをはじめ、同じチームになった皆さんに感謝!! 未熟者な私でしたが、お世話になりました。

*今回出会ったお花*ゴマシジミ、カライトソウ、ウメバチソウ、ミヤママコナ、ミヤマトウキ、オヤマリンドウ、ミヤマアキノキリンソウ、シモツケソウ、オニアザミ、タカネマツムシソウ、ミヤマトリカブト、タカネナデシコ等



■②コース 梅池高原～白馬岳ピストン

●日程：8月22日(木)～26日(月)

●参加者：L和田 SL澤田(律) 瀧原 田中(美) 田羅間 徳本 苦瓜 藤原(千)

●行動記録：

(22日)阪急梅田バスターミナル 22:30 発(夜行バス)

(23日)梅池高原バス停(7:00 着)ーゴンドラ梅池高原駅 8:00 発～天狗原(11:07 着) 11:12 発～乗鞍岳(12:56 着) 13:10 発～白馬大池山荘(13:56 着・泊)

(24日)白馬大池山荘 6:30 発～船越の頭(7:34 着) 7:44 発～小蓮華山(8:55 着) 9:05 発～三国境(10:02 着) 10:07 発～白馬岳(11:25 着) 11:40 発～白馬山荘(12:00 着・泊)

(25日)白馬山荘 4:30 発～白馬岳(4:55 着) 5:00 発～三国境 5:17～小蓮華山(6:19 着) 6:24 発～白馬大池山荘(8:25 着) 9:00 発～乗鞍岳(9:49 着) 9:55 発～天狗原(11:20 着) 11:30 発～自然園(12:51 着) 13:00 発ー梅池高原駅(14:35 着)ーシャトルバス(15:00 乗車)ー白馬ハイランドホテル(15:35 着・泊)

(26日)白馬ハイランドホテル 9:00 発ー播磨中央公園ーJR 加古川駅ーJR 宝殿駅ー山電高砂駅(19:00 着)

◆22日～24日・ゆっくり登山でも山を楽しんだ白馬往路

田羅間

22日、大阪発 22:30 のバスで梅池高原バス停に 23日 7:00 頃着く。リフト、ゴンドラを乗り継いで梅池高原に着き、登山開始。水の流れる道を登り天狗原へ。ここまでは5年前の夏山山行の時に来たことがある。(残念ながらここで引き返したが)

これから行く登山道を見上げると凄い急坂に尻込みする。しかし、覚悟を決めて登って行く。息を整えながら、ストックに頼りながら登る。ゴロゴロの岩道や大きな岩も越えて行く。そして短かったが雪渓も渡る。

ケルンの所からは下って行くと白馬大池と小屋が見えてくる。着いたと思いきや池をぐるっと回って大小の岩々が積み重なっている道を下って行く。ついに小屋に着いた。途中チングルマなどの花も見られたが、もう少し早い時期なら小屋の周り是一片の花畑だったろうと思われる様相を見せていた。全員無事に登ってくることができホッとす。小屋は快適。部屋は上下だが4人ずつの個室、トイレも綺麗でたくさんあった。ゆっくり休めた。明日も頑張るぞ！！と思った。

24日、白馬大池山荘を6時30分出発。見回目ゆるやかな登りと思いきや、かなりの傾斜。小休憩を取りつつ登って行く。小蓮華山まで遠かった。約2時間半キツイ登りであった。そこからはゆるやかなアップダウン。休憩して、歩き始めるとすぐに三国峠だった。そこから見上げる岩山、どこを登るのかと思うほどの大きな岩。気を引き締めて登っていく。

さらに2時間半で白馬岳に到着。素晴らしい眺め。360度山また山。今日は風が強かったが、天気はよく最高の眺め。空はバツグン青！！ 待望の白馬岳に登り気分最高白馬山荘に12時頃着く。小屋の昼食が13時までと聞き、とりあえず注文する。山で食べるラーメン。インスタントではなく、少しお高いが美味しかった。早く着いたのでのんびりする。

◆25日～26日・白馬岳の復路頑張りました

田中(美)

25日、昨夜からの雨は上がっていない。今日は2日かけて登って来た登山道を1日で下りる。足が持ってくれることを祈る。霧雨の中でのストレッチ、ヘッドライトを点灯して早朝の出発。

雨がきつい、顔にあたって痛い、雨ではなく雪のようだ。周りは暗くて何も見えない、前の人しか見えない。この暗い登山道を正確に進まれるリーダーさんは凄いなと思いました。

周りが少し明るくなってきた。岩陰から広い所に出た時、右側の雲の上に太陽が出ていた。白馬岳の日の出を期待していましたが見られず、遅いながらも雲の上の日の出を見る。お天気が回復して良かった。尾根の右側は断崖でガスが



下から勢いよく吹き上げてきて何も見えない。左側は晴れて山々が綺麗に見渡せる。細い尾根なので脇見は出来ない、高い所の尾根は小走りに通り過ぎたくなる。小蓮華山で休息。巨岩が続く、木の隙間から白馬大池が見えて来た。でも、なかなか辿り着かない、やっと白馬大池山荘に着いた。昨夜よりテントの数が多く張ってある。カラフルなテントが20張ほど並んでいる。ここで食事タイム。

さあ、これからは来た時と同じ白馬大池の淵の巨岩を歩く。大池に落ちない様に慎重に足を進めないと危険箇所が沢山ある。無事通過出来た。まだまだこの先はゴロゴロの足場の悪い登山道が続いている。雪溪の所にたどり着いたが、上る人、下る人が多く待っていたらなかなか前進できない。ようやく下り始める。ロープに掴まり滑らないように気を付けて下る。下りた後も巨岩が待っている。天狗原に下りて来た。木のベンチが沢山あり登山者の唯一の憩いのベンチのようだ。ここでしばらく休息。木道はいい。ずっと続いて欲しいと思ったがそうは行かない様です。今度は傾斜のきつい下山道を下って行く。後少しでゴール。梅池ロープウェイに着いた時はホッとしました。

白馬岳で出会った花。コマクサ、ミヤマシオガマ、カライトソウ、ハクサンフウロ、ミヤマアズマギク。

時間があつたので梅池自然園を散策した後ロープウェイとゴンドラを乗り継ぎ梅池高原駅へ降りた。そして集合場所の白馬ハイランドホテルへ向かった。

26日は全員でホテルの前で記念写真、後立山連峰にお別れを告げてバスで帰路へ。

4日間お天気に恵まれ(24日早朝だけ雨)念願の白馬岳登頂が出来ました。リーダーの和田さん、澤田さん、参加者の皆さん有難うございました。お疲れ様でした。

■③コース 大雪溪を登り白馬岳へ

●日 程：8月23日(金)～26日(月)

●参加者：La 上田 SLa 安田 香川 木畑 高島 山本(正)

Lb 森本 SLb 野村 垣内 笹木 田中(重) 村上

●行動記録：

- (24日)猿倉荘(5:45着)6:25発～白馬尻荘(7:35着)7:50発～葱平(岩室跡)
(10:40着)10:55発～白馬頂上宿舎(13:40着・泊)
- (25日)白馬頂上宿舎4:20発～白馬岳山頂(5:05着)5:20発～三国境(6:05着)
6:25発～小蓮華岳(7:25着)7:40発～白馬大池山荘(9:30着)9:50発～
乗鞍岳ケルン(10:30着)10:35発～天狗原(11:45着)11:55発～梅池自然
園(13:05着)14:15発—ロープウェイ5分—ゴンドラリフト20分—梅池高
原駅(15:10着)15:50発—白馬ハイランドホテル(16:00着・泊)
- (26日)白馬ハイランドホテル9:00発—播磨中央公園—JR加古川駅—JR宝殿駅—山電
高砂駅(19:00着)

◆大雪溪を登り白馬岳へ

木畑

【23日～24日】当初、雨の中を登ることを覚悟してバスで移動の<集中山行>でしたが



低気圧が一日早く東へ移動してくれたお蔭で天気は朝から曇り、時々晴れの模様となった。予定通り5時過ぎにバスはJR白馬駅前に到着。登山口の猿倉迄タクシー3台に分乗し6時に到着。

大雪溪入口を目指して樹林帯を歩くこと1時間30分漸く到着。眼前の白馬岳登攀ルートを見上げると大雪溪の両サイドにお花畑が見えてきた。その瞬間、心ワクワク、ドキドキである。覚悟してアイゼンを装着赤い線に沿

って歩き始めたが夏の終わりの時期の為雪溪が少なく途切れ途切れとなり、都度ガレ場へ移動しての登攀となった。途中立ち休みを繰り返しながら葱平<2,300m>迄来ると空気も薄く所どころガスも発生気温も低くなり息をするのも大変。漸く今日泊まる村営<白馬頂上宿舎>が見えてきた。少し遅い昼食を摂った後最後の直登250mをゆっくりと時間をかけて登った。13:40分全員無事山小屋に到着。

リーダーの巧みな叱咤激励で登れたことに感謝感謝である。夕食は地元食材を使用したバイキング料理を美味しく頂きました。20:00消灯。

【25日】3時起床。前日からの天気回復で気温は低くガスも発生、風も強く<日の出>が見られる可能性に期待を込めて山頂目指して4:20分出発。5:04分の日の出を待ったがガスの中、見ることは出来なかった。記念写真後すぐ下山開始三国境(長野、新潟、富山)を目指す。薄暗いザレ場と強風の稜線を慎重に歩き6:00到着。軽い朝食をとる。

いよいよ下りの長丁場～小蓮華岳～船越ノ頭～白馬大池～白馬乗鞍岳ケルン～天狗原～梅池ヒュッテ。下山道にはハイ松帯にチングルマ、トリカブト等高山植物が多く見られた。しかし、乗鞍岳ケルンから梅池ヒュッテを目指す岩場続きの下り急坂には全員がへトへト岩の間に足を取られたり、雪溪では尻もちを着いたり、グループの間隔が空き過ぎる時もあったが無事13:00梅池ヒュッテ到着。

宿泊ホテル<白馬ハイランドホテル>の温泉は塩化イオンが多く、源泉49.5℃、かけ流しの湯で私達の疲れを癒やしてくれた。また翌朝の露天風呂からは<白馬三山>が眼前に見え、

私達に“またきてね”と朝の挨拶をしてきている様でもあった。今回の山行は昨年中止となったコースでもあり是非挑戦したい思いが実行出来たこと。

全て良きリーダーに恵まれ、天気と仲間にも恵まれ無事帰ってこられた事に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。

◆二度目の白馬岳、初めての大雪渓

笹木

夏山山行から無事に帰ってきた。大きな怪我はなかったものの、足を見ると足首がふくらはぎと同じくらいに腫れて象の足様となり、しかもパンパンに硬くなっていた。3日間はぼーっとして何もしないで、一週間経ってようやく心も体もしゃんとしてきて感想文を書き始める。が、記憶がすでに曖昧で、憧れの大雪渓をどうやって登ったのかははっきり思い出せない。

白馬岳は、私が山登りを始めるきっかけになった山である。6年前の8月初旬、知人に連れられて梅池方面から登った。その時から次は大雪渓を登りたいと思っていた。昨年のセカンドステップの終了山行で機会が巡ってきたが悪天候の為中止。今回、計画して頂いたお陰でやっとトライすることが出来、ワクワクして出発した。



夜行バスも初めてで寝不足が心配だったが、白馬駅に下りた時は天気も良くて気分も爽やかだった。タクシーで猿倉まで行き、そこから登山道に入る。後から聞いたのだが前日まで大雨で通行止めになっていたとか。一日違いでとってもラッキーだった。1時間歩いて、白馬尻からヘルメットを装着し念の為ストックも準備した。が、これも慣れていなく、長さを調整する段階で壊してしまった。仕方なく一本だけ使って登り始める。1時間ほど登ると大雪渓が見えてきた。アイゼンを装着して慣れないストックをついて緊張して雪渓に下りた。この時期、雪渓はかなり溶けていて黒く汚れ、想像していた大雪渓と随分違った。白いガスに包まれた雪の原は幻想的で、アイゼンでザクザクと音を立てて歩くのは新鮮で快感だった。これが日本三大雪渓の一つなのだ実感する間もなく、30分も登ると雪渓がまばらになり、そこからアイゼンを外してガレ場のゴロゴロ石をよけながら登って行く。少しずつガスが動いて辺りの景色が鮮明に見えてきた。左前方にとんがった形の良い山がそびえていた。後から知ったが杓子岳の天狗菱らしい。その下方には落石だらけか、大小の石が転がって谷を埋め尽くしている。雪解けの冷たい水が流れる沢を渡ったところが岩室だったのだろうか、そのあたりから列について行くのがやっとになり、遅れる人も出てきた。長い休憩をとる。腰を下ろして来た道を振り返ると、灰褐色と緑の山の谷間に雪渓が白く尾を引き、そのコントラストが美しかった。深呼吸して山々に元気ももらってまた歩き出す。ガレ場を越えて緑が増えてきたと思ったら、高山の花々がとりどりに迎えてくれた。リーダーが「予定時刻より早く着きそうだからゆっくり行こう」と言われ、ウルップソウや車ユリなどの花に足を止めながらひたすら登った。天狗菱は近づいてきたけれど頂上がさっぱり見えない。さらに2時間歩いてやっと稜線に頂上宿舎が見えてきた。「やったーあともう少しだ」と喜んだがここからが長かった。登れども登れども、その先に傾斜が続き小屋が遠のく。足が重い。必死で歩いているのに前との距離が開いていく。

もう駄目か？ いやまだ足が動く、右、左、右、左、足を一步前に出せば一步頂上に近づく。もう駄目だ、いやまだ大丈夫、アルプスだもの、そんなに甘くない。ここが正念場だと自分に言い聞かせながら足を出した。時間の感覚もなくなった頃、ふと顔を上げると天狗菱が横にあり、辺りはトリカブトの花でいっぱいになり宿舎が目の前に。13時30分、予定より1時間半早く到着。これでもかと小屋の入り口の階段をヨタヨタと登った。宿舎は空いていて、二段ベッド16の部屋に私達6人、貸し切り状態だった。遠慮なく足を伸ばして荷物を広げられるのが嬉しい。夕食はバイキングで宿舎オリジナルの手料理が満載、ワイン片手に皆笑顔で乾杯！夜になって予想はしていたものの寒くて寒くて、シャツを重ねてダウンに靴下に持っているものを着込んだが、それでも寒く掛布団を二枚重ねて寝た。さすがに夜中に汗をかいて、今度は暗闇の中、一枚一枚脱ぎながら寝た。

二日目

翌朝、ガスで白く霞む中をカップとヘッドランプをつけて予定通り4時15分に出発した。白馬山頂には5時過ぎについた。東の空にかすかな日の光が見えて、みんなの視線はそこに集中したがご来光は見られなかった。小蓮華への縦走路は切り立った崖の上。横風が強く気を緩めると谷底へ吹き飛ばされそうな稜線をカップのフードを抑えながらしっかり歩いた。少しずつガスが動き、雄大なアルプスの峰々が見えてきたときは感動だった。眼下に遠く白馬尻の小屋が見えて続く雪溪から尾根へ、昨日から歩いてきた道のりが一望できた。あそこから歩いてきたんだと思うと感慨はひとしおだった。リーダーから「ここからは景色も良く、貴重な花やライチョウも見られるかもしれない。各自のペースで歩いて大池まで下りてください。」と言われて嬉しかったが、一人になるのは心細い。結局それ程離れることなく、ほぼ皆一緒に下りてきた。雄大なアルプスのパノラマと澄んだ空気、可憐な花々を思う存分楽しみ、この感動を味わうためにあの苦しい道のりがあるんだと、改めて自分の足でここまで来られたことに感謝した。

しかし、景色や花々を楽しみながら歩けたのはここまでで、ここからの道程が大変だった。大池から乗鞍への登りはまるで海岸のテトラポットを渡り歩くような岩山で、よろけて踏み外したら池に落ちてしまいそうだった。乗鞍山頂はゴロゴロした岩山の台地で立派なケルンが立っていた。ハイマツの間を下り、小さな雪溪を渡り、大きな岩を伝い歩き、そこから先も大水が流れて岩が浮き出したようなごつごつの歩きにくい道をひたすら下りた。靴底が濡れると滑りやすく、用心して一步一步踏む石を考えながら下りていくのは大変だった。膝も痛いしふくらはぎもパンパンで足が思うように動かさない。ちょっと気を緩めると転びそうで、6年前にこの道を登ったのが信じられない程だった。でも、今回2グループの人達はこの道を往復したのだからとんでもないことと感心した。天狗原の木道が見えたときは皆声を上げて喜んだ。梅池自然園で少し自由行動をしてロープウェイ、ゴンドラと乗り継いでゆっくり下りてきた。

白馬ハイランドホテルは広くて洋室に3人、ベッドでゆっくりと休めた。早朝、大浴場の露天風呂で、正面に見える白馬三山に見とれながら、山の話に盛り上がった。が、風呂より先に展望台に行った人からモルゲンロートが見られたと聞き、そこに考えが及ばなかったことを後悔した。

山行を終えて、とてもしんどかったけれど、澄んだ空気と雄大なアルプスの景色を思い起こすと「さあ、次は何処へ行こう」と気持ち新たに胸を膨らませている。

■④コース 唐松岳・五竜岳縦走

●日 程：8月23日(金)～26日(月)

●参加者：L須増 SL島谷 岡田 河崎 中村 西脇 吉村

●行動記録：

(24日)八方の湯・駐車場(5:30着)～アダム八方駅(5:40着)7:00発—ゴンドラとリフト2基—八方池山荘(7:30着)7:40発～第2ケルン(8:10着)8:15発～第3ケルン／八方池(8:40着)8:55発～扇雪溪(9:50着)9:55発～丸山ケルン(10:15着)10:25発～唐松頂上山荘(11:30着)11:45発～唐松岳頂上(12:05着)12:20発～唐松岳頂上山荘(12:30着)13:05発～大黒岳(14:45着)発～最低鞍部～白岳／遠見尾根分岐(16:05着)発～五竜山荘(16:15着・泊)

(25日)五竜山荘(6:00着)～五竜岳(7:06着)7:21発～五竜山荘(8:18着)9:04発～白岳／遠見尾根分岐(9:10着)発～西遠見山～西遠見ノ池(10:42着)発～大遠見山(11:11着)11:17発～中遠見山(12:00着)12:20発～小遠見山(12:44着)12:52発～地蔵の頭(14:13着)14:18発～アルプス平駅(14:29着)15:04発—ゴンドラテレキャビン—とおみ駅(15:12着)発～徒歩～JR神城駅(15:35着)15:38発—JR白馬駅(15:56着)～徒歩～白馬ハイランドホテル(16:20着・泊)

(26日)白馬ハイランドホテル9:00発—播磨中央公園—JR加古川駅—JR宝殿駅—山電高砂駅(19:00着)

◆八方尾根から唐松岳・五竜岳へ眺望を楽しむ

西脇

八方の湯(バス駐車場)に予定より早く到着! 雨は降ってない。大丈夫。…前夜出発時は雨が降っており、心配したが。今日はいい天気になるだろう。

アダム八方駅のゴンドラリフトの待ち時間にストレッチ。始発のリフトを乗り継ぎ、爽快な気分で高度1,800mに。八方池山荘から出発。木道コースで第2ケルンへ。木道沿いには、可憐な草花が。また、水の流れが音をたてていた。そして八方池へ。池の周りには‘お花’が…。白馬三山はガスの流れのなかに見え隠れしていた。

第3ケルンからは、いよいよ登山コース。ダケカンバの巨木を観ながら登っていく。その先には扇雪溪があり休憩地となっていました。再び登って丸山ケルンに。ここは眺望がきき、不帰ノ嶮が鮮明に見えた。さらに。鎖場・ガレ場を登る。

唐松岳頂上山荘手前からは、強い西風に乘ったガスに出迎えられる。山荘からはサブザックで唐松岳頂上へ。晴れていれば四方絶景を楽しめるのだろうが、西風からのガスで五竜岳方面は見えず。北の白馬鎗ヶ岳方面を眺望する。…コース予定時間は順調、山荘にて昼食。

さて、ここからは五竜岳方面への険しい岩場・鎖場の難所をめざすことに。ストックはしまい、ヘルメットを着け、気を引き締め出発。相変わらず強風のガスにあおられながら。

牛首からの岩稜での転落は確実に死亡に繋がる…緊張。安全に確実に一步一步進む。

無事、難所を通過し大黒岳ピーク直下をトラバースして最低鞍部へ。そして最後の白岳／遠



見尾根分岐の登り。疲れた～。分岐から先を見ると、目の前の下りに五竜山荘が…。
やっと着いた。…五竜岳はガスで全貌を見せないが、明日の楽しみにしよう。そして、無事到着に美味しいカレーとビールをいただきました。

メンバーの皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

◆五竜岳山行2日目

中村

五竜岳への登頂は、早朝の出発予定だったが、強風と霧雨のため一時待機。しばらくして雨が上がり、6時に小屋を出発。岩場の登山道は、足を踏み外すと、はるか下の方まで転げ落ちてしまう急斜面。頂上から降りてこられる登山者をかわすのも、細心の注意を払う。どなたも我先に進む人などいない。相手の動行を読み、妨げることなく進む。
流れる霧の合間にチラチラ姿を見せる、キレットで繋がる鹿島槍。かすんで見えないが右方の立山と剣岳。広々としたすがすがしい山頂での景色だった。

小屋まで戻ると、いよいよ下山。遠見尾根からは、昨日歩いた唐松頂上山荘～牛首～大黒岳～最低コルがきれいに見渡せる。何度も何度も振り返り、名残惜しくまた、いとおしい思いで別れを告げた。

リーダーをはじめ、メンバーに感謝です。ありがとうございました。

■農鳥岳塩見岳縦走

- 日程：9月2日(月)～6日(金)
- 参加者：L尾内 SL上田 兼澤 村上
- 行動記録：

(3日) 奈良田バス停 (8:35 着) 8:40 発—奈良田第一発電所 (8:50 着) 9:10 発～大門沢登山口 (9:45 着) 9:50 発～大古森沢 (11:15 着)～森の中・昼食 (11:30 着) 11:50 発～大門沢小屋 (14:00 着・泊)

(4日) 大門沢小屋 4:00 発～大門沢下降点 (9:25 着) 9:45 発～農鳥岳 (11:00 着) 11:15 発～西農鳥岳 (12:25 着) 12:45 発～農鳥小屋 (13:30 着) 13:35 発～三峰岳 (みぶだけ) 分岐 (16:30 着) 16:40 発～熊ノ平小屋 (17:05 着・泊)

(5日) 熊ノ平小屋 5:45 発～安倍荒倉岳 (6:30 着) 6:35 発～新蛇拔山 (7:30 着) 7:40 発～北荒川岳 (9:35 着) 9:50 発～肩の広場 (12:15 着) 12:30 発～塩見岳東峰 (13:25 着) 13:35 発～塩見岳西峰 (13:45 着) 14:10 発～塩見小屋 (15:45 着・泊)

(6日) 塩見小屋 4:00 発～本谷山 (6:25 着) 6:50～三伏山 (8:05 着) 8:15 発～三伏峠小屋 (8:20 着) 8:30 発～鳥倉登山口 (11:00 着) 11:05 発～鳥倉ゲート (11:50 着) 12:00 発—清流苑 (13:20 着) 15:20 発—松川 I C (15:30 着) 15:47 発—名古屋駅 (18:30 着) 19:08 発—JR 姫路駅 (20:38 着)

◆3日 奈良田温泉から大門沢小屋

村上

夜行バスの到着の行程で、奈良田温泉から奈良田第一発電所まで、運よくバスに乗車することが出来たので幸先が良いと気分が楽になりました。

大門沢登山口からは、左に沢の流れる音を聞き右には鬱蒼とした杉林が続きます。空はすっ

きりとした青空です。登り始めると下山して来る若者たちのグループと出会いました。まだまだこれからでも登れそうに元気です。立派な吊り橋は、かなりの揺れで足早に渡りました。次から次へと河原を歩いたり、何度となく渡渉箇所や丸太橋が現れます。橋が流されたままの所もあります。水の流れが多い所では皆で渡れそうな場所を探して渡りました。標高が高くなるにつれて美しいブナの森に変わります。ブナの木に囲まれて食べる昼食のおにぎりはいつになくおいしかったです。不安定な二本の丸太の橋を渡ると、間もなく大門沢小屋に到着です。

今日の沢沿いの登りの5時間は標高差900メートル、まだまだ登りの助走に過ぎません。

◆4日 南アルプスの長くて厳しい縦走に挑戦

兼澤

4:00手を伸ばせば届きそうな天の川を見ながら、大門沢小屋を出発した。2回渡渉したが、かなり水かさがあり、流れも速かった。事前に沢の状態を確認した時、小屋の女性が「ゼンゼェ〜ン、大丈夫ですよ！」と聞いていたのだが、「エェ〜、これが・・・大丈夫なの？」であった。

針葉樹林帯の急坂を、喘ぎながら、ひたすら登る。偶然、一頭のニホンカモシカに遭遇した・・・“よう来たなあ〜、気張ってはりませなあ〜、気いつけて行きやあ〜”・・・と、言いたげに、後ろを振り向きながら林の中に姿を消した。元気ももらって、黙々と登った。

ハイマツ帯となった。ゴーロ帯を過ぎた。登山道は整備されている。道標のペンキマークやピンクのリボンも分かりやすい。

9:25大門沢下降点に到着した。ここには鐘を吊るした遭難碑があった。誰かが鐘を鳴らした。慰霊の音が大きく響いた。

11:00農鳥岳山頂(3026m)に着いた。山頂部は平べったい感じがした。ケルンがあり、その中から、“ホンド オコジョ”が愛らしい仕草で出迎えてくれた。何頭いたのだろうか？ケルンの隙間のあっちこっちから、背中が黒褐色で、下顎から腹部が真っ白の身体が動き回る・・・“頑張っってよう来てくれはりましたなあ〜、でもな、この後もキツイでえ”・・・と、教えてくれた。

西農鳥岳に向かった。穂高っぽい岩場、ザレ場ありで苦戦した。12:25西農鳥岳山頂(3051m、日本第15位の高さ二等三角点、200名山の一つ)に着いた。「コースタイム40分」とあったが、“無理や!”と思った。

13:30農鳥小屋に着いた。ここで、水の補給をする計画であった。しかし、山小屋の親父、「今日は、水は無い、沢があるから、そこで汲め」、「今から、熊ノ平小屋まで行く？ 健脚やなあ」、「雷雲も近づいている」など、嫌味な言葉の連続であった。結局、嫌な思いをしただけで、水も補給出来ずに出発した。

農鳥小屋の先から三国平へトラバースした。悪場に近い状態のコースであったので、緊張の連続であった。厳しい巻道であった。

15:30頃、水場に着いた。冷たい水が身体の隅々まで行きわたった。うまかった。持っている水が少なかったので補給できて、安心した。



16:30 三峰岳(みぶだけ)からのコースと合流した。急坂とガレ場が連続する。加えて、雨模様となった。カッパを着用した。

17:05 熊ノ平小屋に到着した。実に、13時間05分、30.4km (YAMAP) の厳しくも思い出深い山旅であった。

◆5日 待望の塩見岳にのぼる

上田



「大門沢小屋からここまで来るのは健脚ですよ、今日は楽に行けますよ」と熊ノ平小屋のお姉さんにおだてられて5時45分出発、しばらくは小さなアップダウンをくりかえして森の中を進む。今日で3日目、疲れは残っているが大きな登りや岩場がないのが幸いだ。

わずかな樹木の切れ間から見える展望は素晴らしい、左手は大井川源流となる深い谷をはさんで昨日頑張った農鳥岳、濃緑の斜面を真っ白い滝が落ちる。右手は伊那谷の向こうに中央アルプスの

峰々と遠く槍・穂高も見える。

歩きはじめて4時間近く、ハイマツのトンネルを抜けた瞬間、塩見岳がドンと姿を現した。そこは北荒川岳の山頂、険しい山頂が多いがここは砂礫の広場といったところで塩見岳は手に取るように見えるし富士山も見えた。

南アルプス中央の重鎮・塩見岳が威圧するように立ちあがっているが、肩の広場までの登山道もはっきりと見えるし、標高差は約350m、こうなると私たちの登高意欲の方がまさる。

ザレ道を一步一步踏みしめて肩の広場へ、岩を踏みしめて13時25分塩見岳東峰に立った、すでに午後となってガスにおわれて山頂からの大展望はえられなかったが一人一人万歳をして写真を撮った。

少し高い東峰から3046.9mの三角点のある西峰まではわずかな距離、山頂でコーヒープレイク、幸せな時間だった。南アルプスは登山者が少ないのでシャッターを頼むのも難しいのだが、ここで4人そろった写真を撮ってもらえたのもよかった。

14時10分山頂をはなれて塩見小屋をめざす。ここからの急傾斜の岩場の下りは冷汗の出る思いだった。リーダーや前の人のサポートで無事下山、15時45分塩見小屋に着いた。

兼澤さんは今日が誕生日、私は月末に80歳となる誕生月に念願の塩見岳登頂をはたせて幸せだった。

◆6日 塩見岳・仙丈ヶ岳に見送られて

尾内

いよいよ最終日、今日は、塩見小屋から日本で最も標高の高い三伏峠を通過して鳥倉ゲートまで下っていく。4時小屋を出発、真っ暗な中、ガレ場の下りをルートを見失わないように、足を踏み外さないように慎重に降っていく。塩見新道との分岐を過ぎたあたりから道はなだらかになって歩きやすい。だんだんと夜が明けていく。今日は快晴、昨日登った塩見岳が樹木の間から見え隠れし私たちを見守ってくれている。目の前には、昨年夏山で登った烏帽子岳に小河内岳が、そして続く南アルプス南部の稜線が延びている。登り返して本谷山山頂に到着。東は

富士山が山の峰から頂を覗かせている。西に御嶽山、先月登った空木岳・木曾駒ヶ岳を望む。遠くに槍ヶ岳も目視できる。ここで、小屋で作ってもらったいなりずしを食べる。とっても美味しい。小屋の方の心遣いが身に染みる。さらに小さなアップダウンを繰り返して三伏山に着く。ここでも360度の大きなパノラマが広がっている。いつまでも見ていたい気分だが、そうはしてられない。脳裏に焼き付けて先を急ぐ。三伏峠からは、昨年通った道。道中は9/10の標識を目安に昨年の思い起こしながら進む。樹林帯の切れ間からも仙丈ヶ岳と北岳が堂々として見える。4日間歩き通せたご褒美のようである。今年も頼りない細い丸太の橋や梯子は、やはり足がすくむ。滑らないように慎重に渡る。途中の水場「ほとけの清水」で喉を潤し元気を取り戻す。11時鳥倉登山口へ到着。しかし、バスの乗り入れが8月下旬で終わっているため鳥倉ゲートまで45分もうひと頑張り歩く。熟した木苺を採って食べ、自然の美味しさにパワーを回復。農鳥岳と塩見岳ではほとんど人に出会わなかった静かな山旅であったが、鳥倉ゲートの駐車場には週末ということもあるのか、たくさんの車が停まっている。ストレッチを終えた頃迎えのタクシーがやってきて、清流荘まで行き4日間の汗と疲れを流してホッとす。

昨年、白峰三山縦走に挑戦するも台風襲来により農鳥岳登頂を残念、さらに夏山集中でも台風接近のため塩見岳をあきらめた。今回大門沢から入り農鳥岳と塩見岳を繋いで登りたいへん厳しいコースであったが、無事に歩き通すことができ万感の思いであるとともに同行のメンバーに感謝の気持ちでいっぱいである。

■草木川③

- 日程：9月8日(日)
- 参加者：L藤本 SL矢根 乙坂 田中(重) 平石 村上 安田 山本(清)
- 行動記録：草木川駐車地9:30 発～入渓地点9:55 発～終点(12:45 着)

◆最後の草木川を楽しむ

平石

季節外れの猛暑の中、9月8日第3回目の草木川を歩きました。車から入渓地点までの道端にはススキが見られるようになり、柿の木には青い実が沢山付いていて初秋の気配をチラホラ感じました。

ストレッチをしてさあ川へ・・・初めての時と違ってみんなさっそうと入ります。最初入水時は、以前に比べると少し冷たさを感じましたが、まだまだ気温が高く暑かったので直ぐに慣れました。最近雨が降ってなかったので水位は浅く水が透き通っていて綺麗かったです。歩いていると足元を泳いでいる魚がよく見え、思わずすくいたくなりました。もちろん無理だけど・・・来年は絶対網を持って行こう(*__*)



世間が暑い暑いと悲鳴をあげている中、ジャブジャブ水の中を歩くって心地よく爽やかな気分でした。滑ったり転んだり1回目も同じで、みんな転んで滑ってもどンドン歩きました。

コースの半分くらい歩いた所で一休みです。大きな石の上に腰かけてやれやれ。水中ウォークは随分体力を消耗していました。すると思いがけず、ホットコーヒーのサービスがあり次々

におやつが出てきて・・・嬉しい！！川のせせらぎを聞きながら満足なひと時を過ごしました。
ここでは、水溜りで泳いでいる小さな魚を上手に手ですくって取っている人もいました。

休憩地点から終点までには、滝のようなどころがあり鯉の滝登りのように登ったり、また滑り落ちたりとキャーキャー言いながら悪戦苦闘して滝登りをしました。深いところでは胸まで浸かったり犬かきをしている人もいました。終点手前でお昼を食べて川から上がりました。

終わりゆく夏を思う存分満喫した残暑厳しい一日でした。

最初は全く経験がなかったので不安でしたが、全コース参加できて良かったです。リーダーお疲れさまでした。色々ご心配もあったと思いますが、3回無事クリア出来て良かったと思います。来年も楽しみにしています。ご一緒いただきました皆様お世話になりました。ありがとうございました。